Youtubeを活用した
八ッ場ダム周辺地域の情報発信について

斎藤　裕之

群馬県　県土整備部　道路整備課　（〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1）

八ッ場ダム水源地域対策事務所は、八ッ場ダム建設に伴う地元への生活再建や地域の地域振興を目的として設置された。2020年3月にダム本体が完成したことで、観光地として本格的なスタートをきった八ッ場ダム周辺地域の一日も早い地域振興を進めるべく、群馬県で開設したばかりの動画・放送スタジオ「tsulunos」を活用して動画を作成し、Youtube上で八ッ場ダム周辺地域のPRを実施することになった。

本稿では、動画作成・配信に関する知識がほとんどなかった著者が、動画を作成するにあたり、多くの人に視聴してもらえるための工夫や効率よく作成するための手法について紹介する。

キーワード　Youtube，八ッ場ダム，観光PR，情報発信

1. はじめに

群馬県の北部に位置する八ッ場ダムは、利根川の治水対策やダム下流の流水の正常な機能の維持等を目的に建設された。（図 - 1）群馬県では、ダム建設に伴う地元の生活再建や地域振興を担っている。2020年3月にダム本体が完成した一方で、八ッ場ダム周辺地域の観光地としての知名度は県内の有名観光地と比較すると低く、効果的な情報発信が必要とされていた。

図－1　八ッ場ダム（全景）

2. 動画作成の背景

(1)群馬県庁のtsulunos整備

群馬県では、山本一太知事の目玉政策の一つであり、職員自ら動画の作成・編集に携わることで低コストでタイムリーな配信を目指すことを目的として、動画・放送スタジオ「tsulunos」が整備された。（図－2）

図－2　tsulunos（群馬県庁32階）

(2) 突然始まった動画作成・配信業務

私は、土木行政職として群馬県庁に入庁し、土木事務所で道路や河川施設の施工・維持管理を担当していた。八ッ場ダム水源地域対策事務所への異動内示があった際、積算や施設管理などの一般的な業務を行うのかと思い、引継ぎを行ったが、引き継ぎ書には以下の記載があった。

「tsulunosを活用し、月に一度の頻度で動画作成を行うので、動画資料を作成すること」

引継ぎ書では、動画の資料作成を行うとのことであったが、実際に関係所属と打ち合わせを実施したところ、一番若いという理由で動画の演者兼編集者になることが決まってしまった。私はグルメリポータでもない上、動画出演や編集を一切行ったことがないので、右も左もわからないわけであるが、試しにやってみることにした。

3.　課題

しかし、実際に取り組んでみたところ２つの課題にぶつかった。

(1) 動画を多くの人に見てもらうためには

動画配信の目的は、観光振興であるため、目標は多くの人に動画を視聴してもらうことにある。これは、ネット上では「バズってる」と表現される。バズるためには、「堅い」・「情報のてんこ盛り」・「淡々とした説明」といった従来の行政にありがちな動画では、ダメなことは直感的に分かった。一方で、どのような動画にすれば多くの方に視聴してもらえるのか考えることが課題であった。

(2) 効率よく動画作成するためには

とりあえず企画書や台本を作って撮影を行ったところ、前もって資料を撮影関係者に供覧したにもかかわらず、「こんな台本ではダメだ」といった意見や、撮影する場所の意思相通ができていない事態となり、後日撮影し直しになってしまった。

限られた時間で毎月動画を配信するため、この経験を踏まえ、撮影の効率化が課題となった。

4. 課題解決の方向性と具体策

上述した２つの課題を解決するために、私が取り組んだ解決策を紹介する。

(1) 興味を引く動画の作成

動画への関心を高めるため、八ッ場地域で活力的に生きる人への動画出演を考えた。また、職員自ら体を張り、体当たり的なリポートやプライベートな情報を盛り込んだ動画作成方針とした。

a)地域で活力的に生きる人を巻き込む

地域で活力的に生きる人を動画に巻き込んだところ、快く受け入れてもらうことができた。八ッ場地域は、行政と地元が対立していた時期もあったが、動画内では、思わず笑ってしまうような演出までしていただくことができた。（図－3）

図－3　動画内の様子（道の駅　八ッ場ふるさと館）

b)職員自ら身体を張る

職員自ら身体を張ることで、現場の生の声を伝えたり、従来では実施してこなかった職員のプライベートな情報を動画内で伝えた。具体的には、バンジージャンプやキャンプ体験、食レポの実施、プライベートで起こったエピソードを盛り込んだ自己紹介を実施した。（図－4）

図－4　動画内の様子（職員の自己紹介）

(2) 撮り直しをなくすための工夫

動画の撮り直しをなくし、作業効率をあげるために、担当一人で文書による台本を作るのでなく、チームで企画を考える場をつくり、図・絵を使った資料の作成方針とした。

具体的には、職員が絵コンテを作成し，それぞれの企画案を持ち寄る企画会議の場を設けた。その結果、動画イメージがしやすくなった上、関係者が共通の認識になった。また、それぞれの担当が作成した絵コンテのいいとこどりをした企画をつくることができた。（図－5）

図－5　絵コンテ例

5. まとめ

(1) 見てもらえる動画にするために

地域の人を巻き込みこみ、自ら身体を張って挑戦をすることで、群馬県庁内での撮影シリーズでは、当時群を抜いて多い再生回数を得ることができた。

(2) 効率的に動画を作るために

絵コンテを使った企画会議により、撮影関係者が共通の認識を持つことができたので、手戻りがなくった。その結果、１年間で15本の動画を作成し、総再生回数は約30,000回にのぼっている。

(3) 副次的な効果

当取組での、思いもよらない効果を紹介する。動画作成を通じて地元の住民と係ることで、今までの行政にはなかった新たな信頼関係を構築することができ、地域へのお願いや相談事がしやすい環境となった。

(4) 土木行政職員として

忘れてはならない土木行政職員としての活かし方としては、公共工事と県民は直接の接点が少なく、どうしても見えづらい部分がある。そこで、この業務で手に入れたことを生かし、切り口を変えて公共工事と県民の設定をつくっていきたいと考える。（図－6）

図－6　公共事業への活かし方

6.　感想・今後の展望

(1) 感想

「うまくいかないだろう」・「何からやればいいんだろう」から始まったこの取組であるが、想像以上に動画を見てくれている人がいて驚いた。事業成功のスイッチはどこにあるのかわからないので、まずはやってみる精神が大事だと感じた。

(2) 今後の展望

有識者に今後の展望を相談したところ、ダムマニア向けの細かい解説やテレビで取り上げないようなエピソードを取り上げてみてはどうかとの意見があったので参考にしたい。

また、他の省庁や自治体では、バズっている人気動画が多くあるので、群馬県においても、社会に影響を及ぼすような動画となるよう、これからも取り組んでいきたい。

7. 付録

(1) 忘れられない企画「ドッキリで町長に怒られた」

数多くの動画を配信した中で、一番思い出に残っている企画を紹介する。長野原町長に八ッ場ダムに関する考えをインタビューしているところ、ドッキリで怒られる企画である。当日の夜は、怒った町長が夢にも出てきた。

図－7　町長にドッキリで怒られる様子

(2) 会計年度採用職員の手先が器用だった

動画に登場する小道具は、ほとんど会計年度採用職員の段ボールによる手作りである。予想外の手先の器用さに関係者一同驚いた。（図－8）

図－8　段ボールで作った撮影小道具

(3) 県知事をイジった

群馬県知事である山本一太知事と共演し、知事のあいさつにアテレコを行った動画を作成した。（図－9）

図－9　山本一太群馬県知事との共演

(4) 動画の紹介について

最後に動画の紹介であるが、「グンマー×ヤンバ―」という名前でtsulunosのYoutubeチャンネルにて公開しているので、多くの人に見てもらえれば幸いである。（図－10）

図－10　グンマー×ヤンバ―のQRコード